

ねりまの文化財

練馬区 地域文化部
文化・生涯学習課
伝統文化係
〒176-8501
練馬区豊玉北 6-12-1
TEL 03(5984)2442

東京文化財ウィーク2026

11月1日から7日までの一週間は「文化財保護強調週間」です。東京都では、文化財保護と活用の推進を図るため、11月3日の文化の日前後を「東京文化財ウィーク」として、文化財の公開事業を実施します。ここでは、区内で実施される関連事業を紹介いたします。

東京文化財ウィーク関連 石神井公園ふるさと文化館主催事業

●特別展 「水を守る一千川家と千川上水の330年」

元禄9(1696)年、江戸幕府は五代将軍徳川綱吉の御成御殿である小石川御殿などへ水を届けるため、玉川上水から分水する千川上水を開削しました。その工事を請け負い、明治期まで水路を管理したのが千川家です。千川家は、水路を修理し、水料米を集め、村々や役所と調整しながら、江戸から近代へと長らく用水を守り続けました。本展では、練馬区指定文化財「千川家文書」などから、上水の開削、田用水としての利用、幕末・明治期の変化、そして千川家が管理を離れるまでの歩みを紹介します。また、古写真や地図を通じて、現在に残る千川上水の流路もたどります。

【期間】9月12日(土)～11月3日(火・祝)午前9時～午後6時(月曜休館、ただし祝日の場合は翌平日が休館)

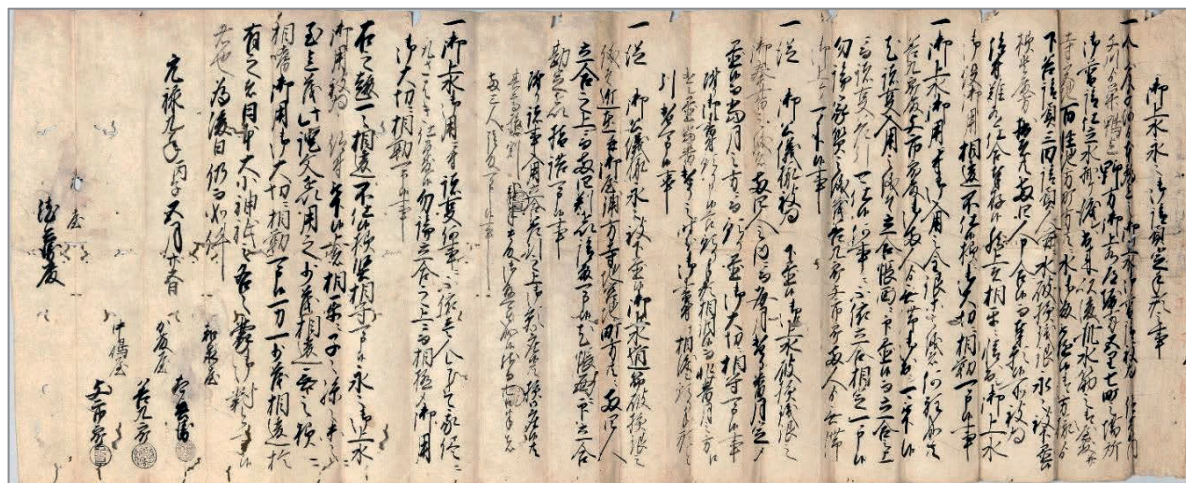
【場所】石神井公園ふるさと文化館2階 企画展示室

【観覧料】一般300(200)円、高校生・大学生200(100)円、65歳以上75歳未満・障害者手帳をお持ちの方150円、中学生以下・75歳以上の方は無料

*一般以外の方(無料・割引対象者)は年齢等の確認のできるものをお持ちください。

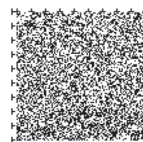
*練馬区立美術館との相互割引あり

* ()内は20名以上の団体料金



(上)御上水永々御請負定手形之事

千川家文書で最も古い年紀を持つ資料。千川から本郷まで請け負った上水工事のうち、巣鴨までの通水が完了した事や、開削に関わった4家間での管理体制について記している。



●フィールドワーク 千川上水を歩く

【日時】10月25日(日) 9時30分～12時(荒天中止)
 【場所】(集合) 西武新宿線上井草駅～(解散) 東伏見駅
 【講師】当館学芸員
 【定員】20名(抽選)
 【対象】小学生以上、最初から最後まで歩ける方
 【参加費】50円(保険料実費)
 【申込】往復ハガキ、または館公式HP申込フォームにて、
 ①イベント名、②氏名(ふりがな、申し込みは2名まで)、③
 住所、④電話番号を記入の上、石神井公園ふるさと文化館へ。
 10月1日(木)(必着)

(右)昭和27年頃の練馬駅付近。練馬区内での千川上水暗渠化工事を目前に、練馬区教育委員会が撮影。

●特別展 展示解説会

【日時】9月27日(日)、10月21日(水)
 14時～(30分程度)
 【場所】企画展示室
 【参加費】当日の観覧券
 【講師】当館学芸員
 【定員】なし



●公開事業 「丸山東遺跡方形周溝墓出土品」

弥生時代後期の方形周溝墓から出土した壺形土器、鉄剣、ガラス玉、管玉からなる出土品(都指定有形文化財)を通年で常設展示しています。

【場所】同館 常設展示室(無料)

●石神井城跡発掘パネル展

石神井城跡(中世豊島氏の城跡、都指定史跡)の発掘調査当時の様子や成果などを、特別公開中の主郭内にて写真パネルで紹介します。

【期間】10月31日(土)、11月1日(日)、
 11月3日(火・祝)
 ※11月2日(月)は実施していません。
 午前10時～午後4時

【場所】都立石神井公園内石神井城跡(石神井台1丁目)
 (無料)

●特別公開事業 「小野蘭山墓誌」

江戸時代中期の本草学者(博物学者)である小野蘭山(1729～1810)の墓誌(都指定有形文化財)を特別公開します。

【期間】10月24日(土)～11月3日(火・祝)
 【場所】同館 常設展示室(無料)

石神井公園ふるさと文化館

住所：〒177-0041 練馬区石神井町5-12-16

電話：03(3996)4060

休館日：月曜日(月曜日が祝休日の場合はその翌平日)
 年末年始

開館時間：午前9時～午後6時

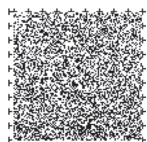
区企画事業 尾崎遺跡(春日町5丁目)展示解説会

尾崎遺跡は、石神井川左岸の低地から台地にかけて立地する遺跡です。昭和54・55年に、区立春日小学校建設に伴う発掘調査を行った結果、旧石器時代から近世までの遺構や遺物が発見されました。現在は埋め戻し、都指定史跡として保存され、出土品は区指定文化財となっています。解説会では、尾崎遺跡の発掘調査で見つかった出土品について、学芸員が解説します。

【日時】10月31日(土) ①午前10時開始 ②午後2時開始(各回40分程度)
 【場所】春日小学校1階 資料展示室(春日町5-12) *練馬春日町駅下車徒歩8分
 【参加費】無料 【定員】各回10名程度(当日直接会場にお越しください。)



縄文時代
 早期の尖底土器



寄贈報告 区登録文化財「^{おりべどうろう}織部燈籠」

「織部燈籠」と呼ばれる石造物があります。特徴の一つは、石燈籠の竿にあたる部分がわずかに十字形になり、竿の下部に人型の像が刻まれた形態です。織部燈籠の名称は、戦国時代の古田織部が創案したことに由来すると言われています。その形態からキリシタンとの関係を指摘する論考もありますが、学術的な評価は定まっていません。

練馬区内では 2 基の織部燈籠が見つっています。1 基は禅定院所蔵であり、もう 1 基は石神井川の川ざらいで発見されたものです。今回は、後者の織部燈籠を区へご寄贈いただくにあたり所有者の小澤一実氏(昭和 30 年代生まれ)から聞き取りした来歴について紹介します。



左 練馬区史編纂時の虚空蔵堂墓地 中央 織部燈籠(昭和31年撮影) 右 織部燈籠(令和8年撮影)

高さ 42.5 cm、幅 24.5 cm、奥行き 17.5 cm。断面長方形の角柱で、竿上部が正面から見ると幅広に膨らみを有する織部型燈籠の典型的な形。石燈籠の火袋(ひぶくろ)の有無は不明。正面上部には記号の陰刻、下部には高さ 21 cm の人型の像が刻まれる。銘はなく、制作年代や伝来などは不明、推定江戸時代。

高松に伝わった織部燈籠は、小澤家が代々預かってきました。先々代藤左衛門(トウザエモン)[明治 30 年代生まれ、昭和 48 年没]が中心となり、石神井川の堰の川ざらいをした時に見つけたものと伝わっています。おそらく、昭和の戦前期だろうということです。堰があった位置は、現在の練馬大橋の隣の竹橋(昔は「こぼし」と呼んでいた)のあたりで、堰から南側に水路があり、田に水を引いていました。石神井川から拾いあげた後、当時高松 1 丁目(現高松 3 丁目)に所在した小澤家が預かり、昭和 30 年頃まで地域の共同墓地である「虚空蔵堂墓地」に置いていました。当時はご住職が常駐する本堂があったそうで、昭和 31 年の練馬区史編纂時に撮影された写真にお堂と墓地の様子が映っています。その後、墓地の改修が行われるなどがあり、織部燈籠を小澤家へ移動したそうです。平成 17 年度に区登録文化財になりました。

令和に入り、織部燈籠は高松 3 丁目の御嶽神社に保管場所を移しました。高松の御嶽講は一実氏の曾祖父にあたる林蔵(リンゾウ)が江戸末期に始め、祖父の藤左衛門も先達をしたというゆかりがありました。場所を移したのは、地域の方に織部燈籠の存在を知ってもらいたいという気持ちからでした。このたび所有者のお申し出により、文化財としてより広く活用をはかる目的で区へご寄贈いただき、石神井公園ふるさと文化館へ収蔵しました。堰の川ざらいで発見されて以来 80 年以上の時間が経ちますが、小澤家によって代々大切に保管されてきたため、保存状態がとても良好です。

寄贈報告 ^{とのやま} 殿山出土遺物

練馬区 No. 127 遺跡は、豊玉南 3 丁目 32 番地に所在する遺跡で、このあたりは、「殿山」といわれていました。南蔵院付近を水源とする中新井川(江古田川)の左岸に位置します。現在、川筋は中新井橋(豊玉南 1 丁目)より上流が暗渠となっており、妙正寺川に合流します。昭和 55 年頃に、この周辺で多数の縄文土器や石器を採集していた考古少年がおり、これらの遺物は平成 18 年度に区にご寄贈いただきました(都築他 2008)。この度、新たに豊玉南 3 丁目から出土したと伝わる土器 140 点と石器 26 点を地域の方からご寄贈いただきました。土器は、縄文時代中期中葉から中期後葉の時期です。石器は、縄文時代中期と後期の打製石斧と磨製石斧、窪みのある石皿があります。ここでは、大型の土器片と特徴的な石器について紹介します。

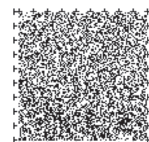




写真1と2は、縄文時代中期後葉の加曽利E2式土器です。「加曽利E式」とは、千葉県千葉市加曽利貝塚が標識となる土器群です。1～4の4段階に時期区分するのが一般的です。写真1は口縁から胴部上半分の土器片で、口径が約27cmと想定されます。渦巻の区画の中に縄文が施されています。写真2は胴部の破片で、棒状工具で弧状に文様をつける連弧文がみられます。写真3の①～③は打製石斧です。①・②は縄文時代後期の特徴的な分銅形をしています。④は磨製石斧です。いずれの石斧も下端に刃部がつくられています。⑤は石皿片ですが、かなり使い込んでいるため、すり減っており、端に窪みがみられます。

No.127 遺跡(殿山)は、試掘調査を行っていますが、住居跡等の遺構が発見されていません。ですが、これらの遺物が出土したということは、縄文時代中期・後期の集落跡が存在していた可能性が考えられます。区内でも早くから宅地開発の波が押し寄せていた地域ではありますが、今後、遺跡の内容や性格を調査によって明らかにしていきたいと思います。

都築恵美子他『埋蔵文化財調査報告23 平成19年度(2007年度)』2008 練馬区教育委員会

文化財保護推進員の活動を紹介します

練馬区では、昭和63年から文化財保護条例に基づく文化財保護推進員制度を実施しています。令和8年4月1日付で第20期文化財保護推進員として12名を委嘱しました。再任の10名に加え、新たに鈴木氏および吉田氏の両名が就任し、任期2年の間、下図のとおり区内12地域を担当して文化財の保護・活用に関する活動を行います。

各推進員は、担当区域の文化財等について巡回・調査を行い、保存状況の把握に努めます。巡回の際には、文化財所有者の方に文化財の現状についてお話を伺うほか、近隣にお住まいの方から情報収集を行うこともあります。

区民の皆様におかれましては、文化財保護推進員の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



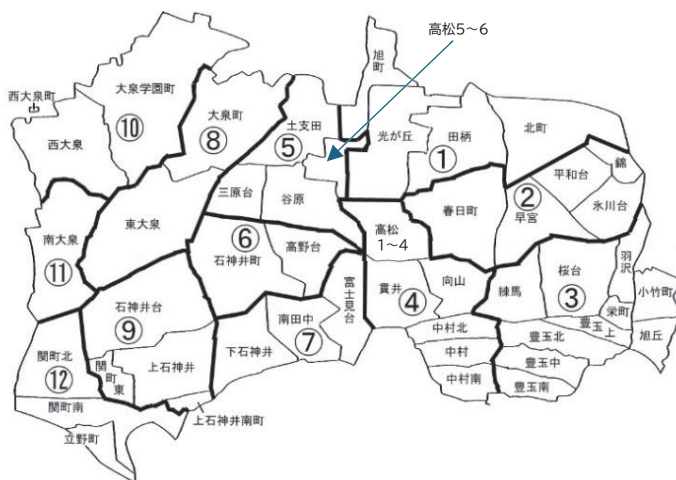
① 岩崎秀男



② 須藤麻世



③ 八巻孝夫



④ 鈴木恵理子



⑤ 関洋一



⑥ 伊藤義夫



⑦ 吉田純子



⑧ 吉岡恭子



⑨ 木村綾子



⑩ 小林巧



⑪ 松下真理



⑫ 上野圭一

